

提案テーマ

「係活動を通じた自主的、実践的な態度の育成とよりよい学級生活の実現」
～学級活動（1）と（3）の相互関連から～

1. 研究テーマについて

(1) 市の研究部会の研究テーマから

市の小学校教育研究会の特別活動部会では、昨年度、「係活動を生かした学級づくり～当番活動と係活動の違い～」をテーマとして設定し、研究をしてきた。係活動の理解を深めることで、子ども達の自主性が育つ、と考えたためである。また、係活動を通して「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の特別活動の3つの視点に沿った児童の姿を明らかにするとともに、係活動を中心に据えた学級づくりが可能となると考えたため、本研究テーマを「係活動を通じた自主的、実践的な態度の育成とよりよい学級生活の実現」とした。

(2) 学習指導要領との関連から

「小学校学習指導要領解説特別活動編」において、特別活動の目標は、「(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。」「(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。」「(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。」と示されている。

係活動が充実することで、これらの目標の実現を様々な面で見取ることができるだろう。係を構成する友達とともに活動することで、「多様な他者と協働する」ことができ、係活動を通して学級生活を楽しく豊かにするために創意工夫を加えながら自主的、実践的に取り組めるよう支援することで、「自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成する」こともできる。

また、係活動では、児童一人ひとりが自分にできることを達成していくことで、「自分のよさ」に気づききっかけになりうる。それらの積み重ねから、「自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う」こともできるのではないだろうか。これら特別活動全体を通した目標や学級活動における目標を念頭に置いて係活動の充実を図ってきた。

(3) 学級活動(1)と(3)の関連から

本来、係活動は、「小学校学習指導要領解説特別活動編」において、「学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の中の「イ 学級内の組織づくりや役割の自覚」に分類されている。活動を進めていく際には、「合意形成」したことにみんなで取り組むことの大切さが実感できるようにするとともに、学級や学校の生活を楽しく豊かなものにするのが重要とされている。

また、同時に係活動の指導に際しては、「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の「イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」の内容と関連づけることが大切とされている。そこで、本研究では、(1)における集団による「合意形成」と(3)における個人による「意思決定」とを関連づけることで、相互に影響し合い、係活動がさらに充実すると考えた。

2. 本学級の係活動について

(1) クラスと活動の実態

本学級では、当番活動と係活動を分けて行っている。当番活動と係活動については、次のような特徴の違いが挙げられる。

当番活動	係活動
○教師が主体となり、仕事を公平に割り当てたり分担したりする活動	○子どもの希望や必要性からつくられる活動
○学級生活を維持していくために必要な活動	○子どもの創意工夫が活かされる活動
○学級全員で交代しながら、学級生活を支えていく活動	○学級生活の向上に役立つ活動
※教師の補助的な仕事になることが多い	○子どもに任せられる範囲の自治的活動
	○学習の補助的な活動にならない活動
	○所属にあたり、子どもの興味・関心、希望などが十分に考慮される活動

以上の点を踏まえ、子ども達には、当番活動について、「黒板を綺麗にする」「プリントを配る」など、「誰かがやらないとクラスみんなが困るもの」と伝え、「一人一役」として、2ヶ月ほどの輪番制で学級の仕事を全員で分担している。一方、係活動については「なくてもよいが、クラスを盛り上げたり、楽しくしたりしてクラスを居心地良くするためのもの」として伝え、人数制限も行わず、「自分のやりたいこと」を行えるようにした。

年度初めから係活動には意欲的に取り組んでいた。今まで「レク係」をやった経験のある児童は多かったが、実質教師主体の活動になっていたり、毎週決まった時間に決まった遊びを行うだけに留まっていたりする課題があった。そのため、「クラスを盛り上げるために自分達に何ができるのか」を第一に考えて、その中で「自分達も楽しめる」活動を考え出し、実行することが大切だと伝えた。活動を充実させるために、クラスで使用できる画用紙やカラーペン、カメラなどを用意した「係活動コーナー」を設置し、その他にも、一週間の振り返りをする機会や係からのお知らせができるコーナーなども設けたことで、子ども達は自分達のペースで、自分達ができることを考えるようになっていった。

係活動では、経験を積んでいくごとに、創意工夫の仕方が上手になっていった。クラスへのアンケートを用いたり、係の話から全体に繋げるために学級会に議題を提案したりするようにもなった。一方、決まった活動しかできず、新しい変化を求めることが苦手な係も存在した。そういった係には「みんなに方向性を聞いてみたら」「こんな活動はどうか」と声かけを行った。これまでの係活動の経験が乏しかった分、教師の声かけのみならず、インターネットなども用いてヒントが得られるようにした。

(2) 係活動を充実させるための取組の3つの柱

I 「時間の確保」：学級活動の年間計画（資料1）を見て分かるように、学校行事やそれに向けた実行委員、委員会活動など、何かと忙しい6年生（高学年）。そのため、なかなか係活動がやりたくても、時間がない、いまいち盛り上がらないという定説があるが、活動時間を確保することで、子どもは短い時間に集中して活動を行うことができる。週に2回、月曜日と金曜日に「係給食」の時間を設定した。月曜日には、一週間の計画や企画の準備、金曜日には一週間の振り返りと翌週の見通しをもつことに主に努めた。

さらに、月曜日と水曜日には、朝の20分間を係活動に設定した。また、朝の会や帰りの会でお知らせできないこともあるため、全体の場で発信する時間がなくても情報交換ができるよう、係からのお知らせなどに用いることのできる「係ボード」を係ごとに用意した。

II 「係コーナーの活用」：係活動の充実には、道具や材料が必要不可欠である。そこで、画用紙やマーカー、模造紙やカメラなどを用意した係活動コーナーを設置した。係活動のために使うのであれば、自由に使用してよいという約束の下、児童は自分達の好きなタイミングで好きな材料、道具を使用できる。このコーナーを設置し、物理的な環境を整えておくことで、「先生がいなくて画用紙をもらえなかったからポスターが描けなかった。」などといった状況を作らずに済む。

III 「適切な評価」：時間と物がどれほど確保されていようと、児童が「係活動をやりたい」と思わなければ活動は盛り上がらない。そのためには、児童同士の評価、教師からの評価、それぞれが必要だと考える。児童同士の評価に向けては、児童が「ありがとう」の気持ちを伝えたり、「こんなことして欲しいな」と要望を伝えたりできるように係ごとにポストを設置した。そのポストに入った友達からの生の声により、やはり「活動ががんばって良かった」と実感できているようだ。

また、教師は、日常の活動を継続的にとらえて評価することが大切である。金曜日には、係ごとに紙媒体で振り返りを行っているが、その振り返りに、一週間どんな活動をしていたか、翌週はどんなことを意識して頑張りたいのか、などを担任からのコメントとして返すことで、児童はそれを励みに次の活動へと向かっていった。また、活動中にも机間指導を心がけ、「頑張ってるね」「今はどんなことをしているの」などと声をかけ、放任の係活動にならないように注意した。（係の振り返り用紙は資料2参照）

以上の3つの柱を意識して活動に取り組めるようにしたことで、児童は、より意欲的に、より自主的に活動に臨めたのではないかと考える。

3. 授業実践①～学級活動(3)～

(1) 授業に至った経緯とねらい

11月の研究授業では、学級活動(3)イ「社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」に関連して係活動について改めて振り返りを行い、今後より一層の係活動のパワーアップを目指せるように「今の自分」や「今の自分達の係」のよさや可能性を客観的に見いだすとともに、現段階で「もう少し」な点も浮き彫りにさせることをねらった。また、そのパワーアップに向けて「自分がかんばれること」を意思決定し、それを係ごとのメンバーで集まって共有することで、「個」でのがんばりを、「全体」でのがんばりへと広げられるよう、題材を設定した。

指導にあたっては、事前のアンケートの形式を、「すすんで活動できているか」「計画的に活動できているか」「クラスが盛り上がるように考えているか」「自分自身も楽しめているか」「係の中で協力できているか」「同じ活動にならないように工夫できているか」の6項目の自己評価方式にした。

これら6項目は、「小学校学習指導要領解説特別活動編」における学級活動の目標「学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。」という文言から内容を選定した。1～5段階の自己評価方式にすることで、自分のこれまでの係活動での取組を思い返すことができると考えたためである。また、その6項目の自己評価結果を、六角形のチャート形式にすることで、自分の係活動における強み、弱みを同時に分析できると考えた(資料2参照)。

さらに、係のメンバー内の平均パラメータを出すことで、個人だけでなく、係の強みや弱みを分析できるようにした。同時に、パラメータを正六角形(バランスの良い活動)にすることを目指せるように、他の係の友達や、同じ係の友達と交流できるようにした。(資料3参照)

係活動をよりよくするための各項目を主に誰が担当するのか。それを決定することで、「自分のよさ」を、係活動を通じて発揮できるようにした。より一層係活動の満足度を高め、クラスにとって充実した係活動にするために自分達にできることをそれぞれが意思決定し、個人目標を立て、それぞれがその目標に向けてがんばることで、係活動がより一層パワーアップすることを期待して授業を行った。

(2) 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
係活動を何のために行うのかを考え、その目標を達成するための自分の役割を理解している。	係活動をよりよくするために、友だちと協力する大切さについて考え、係活動の充実に向けて実際に協働したり、自分にできることにがんばって取り組んだりしている。	学級、係の一員としてのこれまでの自分を振り返り、目指す係の姿に向けて目標を持ち、粘り強く自分にできることに取り組もうとしている。

(3) 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの係活動を振り返る。 (帰りの会にて) ・アンケートに記入する。 (帰りの会にて) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの係活動について言及し、思い返せるようにする。 ・各項目がどういう意味を指し示しているかを具体的に説明する。 	<p>自分の係活動でのがんばりや可能性を踏まえて、現状を自分の事として捉えている。【思考・判断・表現】〈アンケート〉</p>

(4) 本時のねらいと本時案

※学級活動(3)の流れは、小学校学習指導要領解説特別活動編p.75を参照。

○これまでの係活動を踏まえたうえで、今後の係活動のさらなる充実に向けて、自分の現状に照らし合わせて、係活動における目標をもつことができるようにする。

学級活動(3)の流れ	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
【課題の把握】 「つかむ」	・事前にとったアンケートの結果から、係ごとの平均パラメータを知る。(全体)	・アンケート結果から、係ごとの平均パラメータを算出し、児童に配布、黒板でも共有する。	
【原因の追求】 「さぐる」	・パラメータの形の特徴をつかみ、各係の強み、弱みを考える。	・理想の活動が、どんなパラメータになるのか、ゴールを示す。	
【解決方法等の話し合い】 「みつける」	・めあての確認。		

係のパラメータを正六角形にするために、自分の役割とがんばることを決めよう。

	<ul style="list-style-type: none"> ・係のパラメータを正六角形にするためのヒントを見つけるために他の係と交流する。(グループごとの話し合い) ・係ごとに集まり、交流したヒントを伝え合う。(係) ・パラメータを大きい正六角形にするために、係の中でのそれぞれの役割やがんばることを話し合う。(係) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の現状と係の現状を踏まえて決められるようにする。 ・全員が同じ役割を担っては、係の発展は望めないことに言及する。 ⇒それぞれが異なる役割を担うことが重要なことを伝え 	<p>◎係活動をよりよくするために、係の友だちとの協力を図り、自分にできることを考えたり、書いたりしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 〈ワークシート〉</p>
--	--	--	---

<p>【個人目標の意思決定】 「きめる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を果たすために、自分ができること、がんばれることを、係で相談したことをもとに意思決定する。（個人） ・係ごとに、メンバーが決めたがんばることをマグネットシートに書き、黒板で共有する。（全体） 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係活動もあくまで、がんばるのは「自分」であり、誰かに決められることではないことを伝える。 <p>⇒個人決定の意味を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マグネットシートに児童の名前を貼り、誰が何をがんばるのが全体に意思表示できるようにする。 	
------------------------------	---	--	--

※観点【主体的態度】については、事後の指導での経過観察において評価することとする。

(5) 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の設定した目標や実践について振り返り、振り返りカードに記入する。（毎週末の帰りの会にて） 	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動の時間のたびに、振り返りの時間を設け、単発で終わることなく、継続して実践できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫しながらクラスを盛り上げるために、意思決定した目標を意識して、粘り強く自分にできることに取り組もうとしている。 <p>【主体的態度】 〈観察〉</p>

(6) 成果と課題

成果：授業を行った成果は、四点挙げられる。一点目は、子ども達が係活動について、これまで以上に真剣に向き合えるようになったことである。これまでも、子ども達は意欲的に係活動に取り組んでいたが、漠然と活動してしまう面や、自己満足的な活動になってしまう面もあった。しかし、本授業を通じて、係活動は「何のためにやるのか」「何を大切に頑張ればいいのか」などについて向き合いながら活動に臨めるようになった。担任としても、本授業を通じて、子ども達の係活動に向かう姿勢が明らかに変わったことが見て取れた。

二点目は、係ごとに問題意識をもって活動できるようになったことである。これまでは、よい活動ができていたように見える係も、実際はメンバーの一部だけで進めていたり、男女で分かれて活動していたりと、協力面での課題が見られた。また、活動そのものは協力して頑張っているが、誰に向けての活動なのか分からず、クラスの友達に楽しんでもらえる工夫が足りていない自己満足的な活動になってしまう問題や、創意工夫面での課題などが存在していた。本授業を通じて、係ごとに強みと弱みを明らかにできたことで、それらの課題を克服するために子ども達が頑張って取り組んでいた姿が見られた。実際に、男女で協力できていなかった係が、「一緒にやろう」と声をかけるなどして、課題を克服する場面も見て取れた。

三点目は、他の係との交流ができたことである。普段は、他の係と現状を伝え合ったり、悩みを相談したりする機会は少なく、係ごとに閉鎖的な環境になりがちである。本授業において、他の係の友達と話し合いをしたことで、協力が苦手な係は、協力ができている係にコツを尋ね、逆に工夫がしにくい係は、どんな工夫ができそうかアドバイスを求める姿が見られた。授業後の活動の中でも、「あのときもらったアドバイスについてなんだけど・・・」と、さらに交流を深める姿も見て取れた。

四点目は、パラメータが活用できるようになり、自分達の係の分析がより客観的にできるようになったことである。本授業において、個人のパラメータを用いたことで、子ども達はパラメータの見方、作り方を理解することができた。それに応じて、毎週末の係の振り返りにおいても、同様の項目を用いた六角形のパラメータで振り返ることができるようになり、「今週は協力の観点が弱かったから、来週はもっと協力して活動しよう」などと、現状の分析から、次週の目標や方向性の決定に役立てることができるようになっていた。

以上四点の成果から、係という「集団」で行う活動も、それを構成している「個」に焦点を当てることで、さらなる「集団」の進化、発展が見られることが分かった。

課題：一点目は、「具体的」という言葉の難しさである。今回、子ども達には、「目標を具体的に決める」ように伝えた。しかし、子ども達に伝わった「具体的」は様々で、「男女で協力する」のようなものもあれば、「活動が同じにならないように、外で遊ぶときと中で遊ぶときが重ならないようにする」など、実際に事細やかに書けているものもあった。「具体的に」という教師の指示は、学級活動のみならず様々な場面で使うワードだが、しっかり説明しないと、こちらの思いは全て伝わるとは限らないことを痛感した。

二点目は、「すすんで活動すること」と「協力」が相反することがある点である。全

員がすすんで活動できれば、その中で協力をするのはもちろん可能であると思うが、意欲や活動ぶりは、児童一人ひとり異なる。係の中でやる気がみなぎっている児童が全ての仕事を行ってしまうと、「協力」は達成できないが、対して周りに合わせて仕事の「協力」を優先してしまうと、ある意味「手を抜く」ことになってしまい、その児童にとっては、「すすんで」活動することにはならなくなってしまう。

これらの課題は、今後も係活動のみならず、学級生活が営まれるうえで、付きまとう課題であると考え。普段の授業から「具体的」という言葉ばかり使うのではなく、その言葉をかみ砕いて児童に説明することで、一点目の課題の改善を図りたい。また、すすんで活動している児童が一人で全ての仕事や役割をやってしまうことのないよう、「こんな仕事もあるんじゃない?」「こんなことしてみたら?」など、協力もできるような声かけを増やしていくことで、二点目の課題解決にも近づけることができそうである。今後も、以上の点を意識して課題の解決に努めていきたい。

4. 授業実践②～学級活動（1）～

(1) 授業に至った経緯とねらい

12月には、学級活動（1）に基づいて「係活動報告の方法を決めよう」という議題で話し合い活動（学級会）を行った。特別活動においては、係活動や集会活動に向けての準備などの授業時間にはもちろん、日常の子どものふとした発言から課題を設定することが多い。今回の議題は、子どもの「先生、二学期は係活動のまとめをどうするの？」という発言から議題を設定したものである。子ども達にとって、係活動はとても楽しみなものであり、二学期の係活動の取組を三学期にも生かしたいと考えている。そのため、二学期の活動を振り返り、三学期により良い形で繋げるために、今回の発言が生まれたと考える。

また、一学期の係活動では、係のまとめを個人での振り返りの形式に留めていた。前述したとおり、児童には、これまでの係活動の積み重ねが少なく、一学期から本格的な係活動報告を行ってしまうと、係活動へのハードルが高くなってしまい、二学期への円滑な活動につながらないと考えたためである。二学期には、児童も係活動への取組がより活発になっていたため、いよいよ本格的な係活動のまとめを行うことができると考えた。

(2) 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
学級での係活動をよりよいものにするために、めあてに向かって協力することの大切さや自分の役割を理解している。	友だちの意見をよく聞き、その意見を比べるなかで、自分の考えと関連させながら考えている。	係活動報告の活動を通して、自分の役割を理解し、これまでの活動を振り返りながら、友だちと協力し、決まったことに粘り強く取り組もうとしている。

(3) 活動のきっかけとその後の流れ

月日	○子どもの活動の様子・思い	☆教師の支援
11月18日 (月) 休み時間	○係活動のまとめをどうするのか、児童が尋ねてくる。 ○何人かの児童が、「方法を学級会で話し合おう！」と提案する。	☆みんなが楽しんで係活動報告をできることを前提に考えさせる。
11月20日 (水) 休み時間	○提案者を中心に、原案を作成する。 (※資料4参照)	

<p>11月28日 (木) 学活1/3</p>	<p>○提案者が、原案説明をおこなう。 ○原案に自分の考えを書く。</p>	<p>☆「自分事」としてとらえるようにすることを伝える。 ☆子ども達の書いた考えを後押しできるように、原案にコメントをする。</p>
<p>11月29日 (金) 休み時間</p>	<p>○司会グループ、練習。</p>	<p>☆本番に、どのような意見が出るか、どんな話合いの流れになりそうなのかを想定するように伝える。</p>
<p>12月2日 (月) 学活 1h (本時)</p>	<p>○係活動報告の方法を決める。</p>	
<p>12月3日 (火) ~ 朝自習や休み時間、係の時間</p>	<p>○決まった方法に沿って、係毎に報告の準備をする。</p>	<p>☆各自計画的に準備を進めるように伝え、協力することを促す。</p>
<p>12月20日 (金) 学活 2h</p>	<p>○「係活動報告」本番。 ○振り返りをおこなう。</p>	

(4) 本時のねらいと本時案

○熱心に取り組んできた係活動のことを伝えられるような発表方法を決めることを通して、係活動と学級目標を関連づけた報告の方法にしようとする意欲をもつことができる。

話し合い活動の流れ	教師の支援 (☆) と評価 (※) 【観点】
1. はじめの言葉 2. 司会グループの紹介 3. 話し合うことの確認 4. 話し合いのめあての確認 5. 提案理由の説明 6. 先生の話 7. 話し合い	☆一人ひとりが自信をもって発言できるように、事前に原案に目を通し、簡単なコメントを書いておく。 ☆司会者が見通しをもって進められるよう、司会進行のカードを渡しておく。

係活動報告の方法を決めよう

<p>C : 「①の紙に書いて発表がいいと思う。」</p> <p>C : 「②のパワーポイントなら、画像も貼られて活動を報告しやすいと思う。」</p> <p>C : 「③のパーティーなら、自分達が報告することでみんなを楽しませることができると思う。」</p> <p>C : 「報告パーティーにすると、新聞係が報告しにくい気がする・・・どうしよう。」</p>	<p>☆あつめる→くらべる→まとめるの流れに沿って意見を言えるように、黒板に視覚化する。</p> <p>☆短冊形のマグネットシートを使用して、出た意見を整理しやすくする。</p> <p>※学級目標に沿って考えられている。</p> <p>【主体的態度】</p>
8. 決まったことのたしかめ 9. 先生の話 10. 終わりの言葉 11. 振り返り	<p>☆司会グループへの労いの言葉をかけるようにする。</p> <p>☆話し合いの良かったところを具体的に賞賛する。</p> <p>※振り返りから、話し合いを通じて、何を感じたのか、どのような考えの変遷があったのかを見取る。【主体的態度】</p>

(5) 成果と課題

成果：本授業を通じての成果は、二点挙げられる。一点目は、話し合い活動を行ったことで、子どもの取組に対する態度に変容が見られた点である。特別活動は、実践ありきの教科のため、話し合ったことをもとに活動することが何より重要となる。今回の学級会を行わずに、ただ漠然と係活動報告を行っていたら、児童は、ただなんとなく活動に取り組んでいた恐れもある。学級会で話し合ったからこそ、そのときに出た意見や考え、話し合い（活動そのもの）のめあてなどを意識しながら活動報告の準備、そして本番に臨めたのではないかと考えている。実際に、係活動報告の本番でも、「一学期のまとめよりも楽しかった」「他の係の報告を聞いて、三学期は、～係をやってみたくなった」など、次の学期につながる発言や二学期の係をよい面で振り返ることができたが故の発言を生むことができたように感じた。

二点目は、たとえ一つに決定しなくても、児童の合意形成が図れたことである。「合意形成」というと、どうしても一つのこと決定しなければならない、という固定観念がありがちである。しかし、今回は原案にある「紙形式での発表」「パワーポイントでの発表」「パーティー（集会）形式での発表」の3つの案が全て混ざった物に決定した。このように、必ずしも一つに決定することにこだわるのではなく、話し合いを通して、児童が考えを出し合った結果として、その結論に行き着いたのであれば、それも「合意形成」だったのではないかと考える。決まったことに対して文句や不満を漏らす児童もおらず、学級全員が決まったことに対して「活動に向けてがんばろう！」と前向きになれていたことも、合意形成ができていたからこそその姿であったと感じている。

課題：本授業でも課題が同時に生まれた。一点目は、子どもの「考えの変容」の瞬間を見ることがの難しさである。学級会の時間において、児童は全体での発言やグループ内での発言など、多くの意見と触れることになる。その中で、はじめにもっていた自分の考えから、新たに考えが変化したり、考えが発展したりする場面が少なからず存在する。その瞬間やきっかけを、少しでも知りたいという思いから、原案の中に振り返りや「友だちの考えを聴いて変化した考え」の枠を設けているが、なかなか事細やかに把握することはできない。その二つの枠における書き方の指導と並行して、今後も大きな課題となると考えている。

二点目は、「原案」の扱い方である。「原案」は、児童が自分の考えを事前に整理、視覚化できることを目的として活用しているツールである。学級会本番にいきなり自分の考えを出して、と言われても厳しい児童もいるのが現状である。「原案」を用いることで、自分の考えを表現することが苦手な児童も、文字として書き表しておくことができると考えている。しかし、一方で課題も存在し、「原案」という紙媒体のものがあることで、発表時にどうしてもそれを「読み上げる」ように聞こえてしまう。もちろん、指導力不足も大きな原因の一つではあると思うが、自分の考えを「話す」と「読み上げる」のでは、他者に訴えかけられる言葉の重みも違う。原案という便利なツールは使用しつつも、「話す」と「読み上げる」の違いを児童が明確に認識できるよう、今後も指導に努めていきたい。

5. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

本研究は単発的、一時的なものではなく、一年間という長い期間における児童の変容、活動の変容から「係活動を通じた自主的、実践的な態度の育成とよりよい学級生活の実現」を目指してきた。「自主的、実践的な態度の育成」においては、児童の一年間の活動の発展、創意工夫の幅の広がりから見て取ることができた。一年間で、係は三回の変更があった。その三回の変更の中で、係の種類そのものは変わらなかったが、メンバーの変化はもちろん、経験をする毎に児童は創意工夫を加えていき、同じ活動にならないように自ら考え、自らの力で活動内容を変化、発展させていった（下の表を参照）。

	一学期	二学期	三学期
レク係 パーティー係	逃走中 休み時間の遊びの企画	逃走中（ルールの改良） 休み時間の遊びの企画 集会活動の企画	逃走中（ルールの改良） 休み時間の遊びの企画 集会活動の企画
クイズ係	給食の時間にクイズ	給食の時間にクイズ 他の係とコラボしてクイズ	給食の時間にクイズ 他の係とコラボしてクイズ クイズラリー企画
ギネス係	ギネスの企画 ギネスブックの作成	ギネスの企画 ギネスブックの作成 他の係とのコラボ	ギネスの企画 ギネスブックの作成 他の係とのコラボ パソコンを使っのギネスブック
写真係	写真撮影→アルバム作り	写真撮影→アルバム作り カメラを使っの企画	写真撮影→アルバム作り 動画や画像を使っの パワーポイント作成
新聞係	新聞作成	新聞作成 他の係とのコラボ記事	新聞作成 クラスに一人一記事 担当してもらっ企画

本学級の児童は6年生であったため、昨年度3月に卒業を迎えた。その際、卒業アルバムや担任への寄せ書きなどに様々なメッセージを書いてくれるのだが、多くの児童が係活動について言及しており、「係活動のおかげでクラスが楽しくなった」「係活動のおかげで企画力や計画性が身についた」「係活動のおかげで男女の仲が深まったし、たくさん協力できるようになった」などの言葉が書かれていた。これはまさしく、係活動を通じて、児童が自らの力で「よりよい学級生活を実現させた」と言えるだろう。児童一人ひとりに視点を向けてみても、以前は人前で発言することが苦手だった児童も、係活動を通じて人前で堂々と発言ができるようになったり、話し合いの仕方が上手になったりと、良い変容を多く見ることができたように感じる。

また、係活動の発展には、前述した当番活動の存在も切り離せなかった。やはり、自主的な態度が育つためには、係活動という「楽しい」「好きな事である」側面ばかりの活動だけ意欲的に行っているはいけないといえる。「やらなければいけない」側面もある当番活動も並行して行ってこそ、自主的な態度が育つのではないだろうか。本学級でも、「当番活動をしっかりやってこそ係活動だよ」を合い言葉に、毎日自分が行うべき仕事を欠かさず行っていた。「黒板の日付を変えるついでに、次の日のみんなにメッセージを書く」など、係活動を通じて、当番活動にも創意工夫が生まれるようになると、学校生活、クラスでの毎日により一層花が咲くのではないだろうか。

(2) 今後の課題

一点目は、時数の問題である。「時間の確保」が大事と考えていると前述したが、年間で学級活動の時数は35時間しか設定されていない。その限られた時間の中で、学級活動

(1)における集会活動、話し合い活動、係活動を行い、学級活動(2)や(3)も並行して行わなければならない。(1)～(3)のそれぞれに配当する時数は明記されていないが、限られた時数の中でバランスよく学級活動の授業を行い、それとともに係活動も充実させるには、担任の方でも綿密なカリキュラムの計画や隙間時間の確保、児童への働きかけが大変重要であり、まだまだ模索中の段階である。

二点目は、児童間の様々な差である。これは、学級活動に限らず、どの教科学習においてもある課題だろう。しかし、やはり児童によってやる気の差、創意工夫の能力の差が大きく、児童によってアドバイスの内容や指導の仕方が全く違うことに難しさをとても感じた。

以上二点の課題の解決がより一層の「係活動を通じた自主的、実践的な態度の育成とよりよい学級生活の実現」につながると信じていたい。そのために、35時間という限られた時数の中で学級活動が最大限充実するような年間カリキュラムを校内で協力して作成することや児童への絶え間ない、粘り強い声かけを続けるなどして、課題の解決、係活動の充実に向けて今後も努めていきたい。

係活動振り返り用紙

5...とても思う
4...思う
3...まあまあ思う
2...あまり思わない
1...思わない

すすんで活動できた?

計画的に
できた?

クラスか
もり上がる
ように考えた?

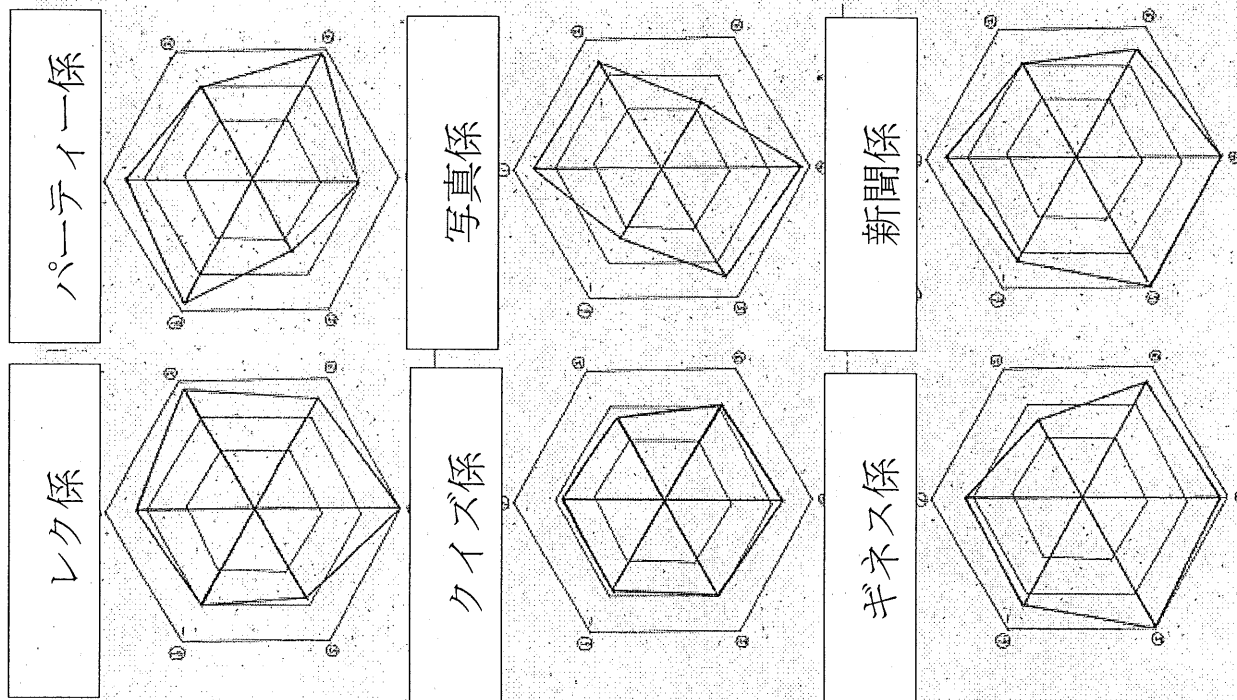
二世帯住宅
どうきょうと、きょうせきく
勉強から児童を守る党
アロコソ-を守る会
ファミリー新聞
タンボール
写真とり隊
は、ペーターン

たのしく
活動できた?

係のみんな
協力できた?

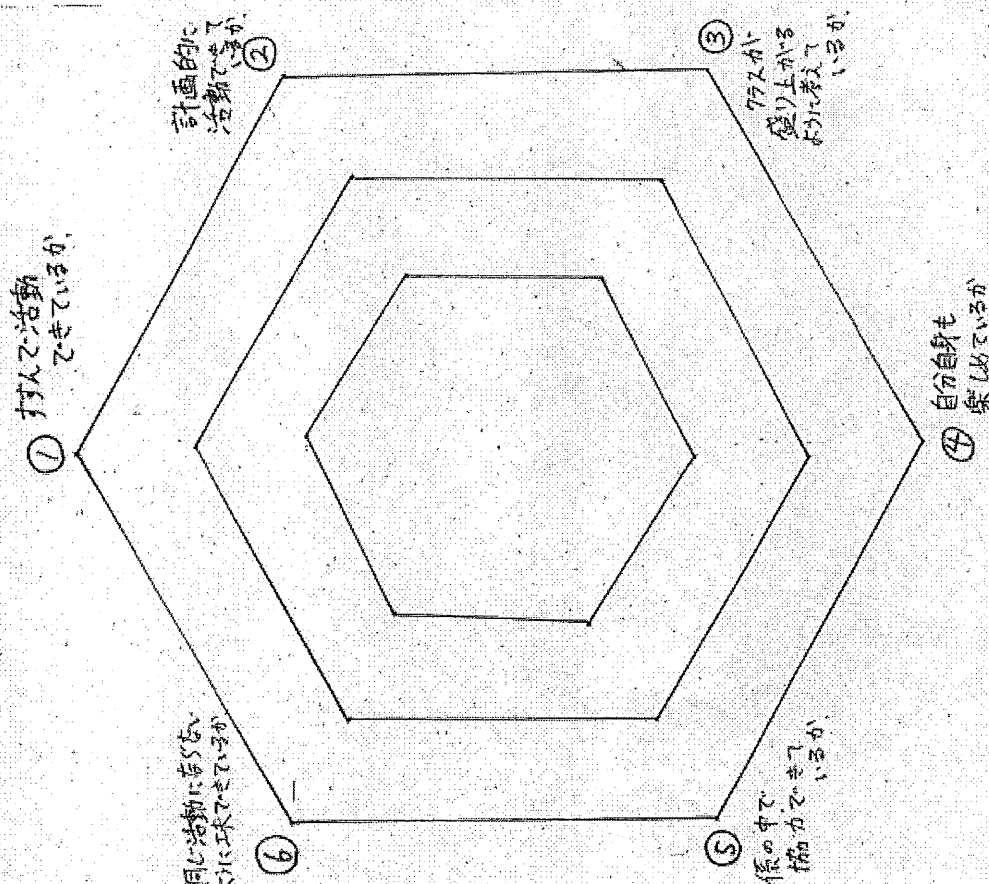
お気づきや連絡

同じ活動に
たのしいよう
にできた?



係の平均パラメータ

自分のパラメータ



第9回六一二流星群会議		名前	
議題		係活動報告の内容を決めよう。	
話し合いのめあて	1	人の意見を聞けうなびたり言葉にしたりして反応しよう。	
	2	学級目標に沿った報告の仕方になるようにしよう。	
提案理由		2学期にがんばったことをみんなにいい形で伝えたいから。	提案者
司会	副司会	記録	
話し合う内容		自分の考え	
<p>②この方法で報告するか</p> <p>提案者の意見</p> <p>①紙に書いて発表</p> <p>②パワーポイントで発表</p> <p>③報告パーティーする</p> <p>(各係がパーティーの中で集大成となる企画をする)</p> <p>☆①、③の中からいいと思うものも理由といしよに考えてください。</p>		<p>友だちの意見を聞いて生まれた自分の考え</p> <p>先生から</p>	
ふりかえり①②③		ふりかえり② (話し合いで感じたこと)	
①		先生から	
②			
③			